

特集

「情報の扱い方」を身につけて思考力を高める

わたし
ことは

ぼくはルドルフだ。
斉藤 洋

国語と
外国語

「英語を学ぶ」のではなく
「英語で学ぶ」

国語
指導

「対話的で深い学び」
って？

書写

小学校の表記は
楷書世界

平成31年度用教科書
訂正箇所

国語教育相談室

小学校

no.

95

光村図書

ぼくは ルドルフだ。

これは、ある猫の物語であり、わたしの物語でもある『ルドルフとイッパイアッテナ』の冒頭のことばだ。

わたしは、この作品で児童文学の世界にデビューさせていただいた。執筆したのは一九八六年の春だ。講談社の児童文学新人賞に応募しようと思って、ぼくはルドルフだ。……と書きはじめた。だから、このことばは、主人公ルドルフの物語のはじまりのことばであるとともに、わたしが児童文学作家の道に一步踏みだした瞬間のことばでもある。

とにかく児童文学の物語を書くなど、はじめでだったし、物語の書き方を誰かに習ったわけでもないの、わたしはどう書きだしていいかわからず、とりあえずそう書きだしたのだろう。だろうというのは、すでに三十年以上も前のことだから、

はつきり覚えていないからだ。だが、今思うと、これには大きな意味があったのではないだろうか。この、ルドルフにとっても、わたしにとっても最初の物語で、ルドルフはまず、自分が猫であることよりもさきに、名を名乗る。猫や人間であることは、変更不可能な宿命的要素である。だが、名はそうではない。変えることは可能だ。

とはいえ、名は、ある遺伝子を背負って、ある環境の中で生きてきた自分を表そうとするときの最初の名詞だ。つまり固有・有名詞なのだ。それまでいろいろあったにしても、ともあれ前向きに生きていこうという意志表明が名乗りなのだ。

ルドルフはそういう意志表明として、まず、「ぼくはルドルフだ。」

と名乗ったのだろう。そして、きつとこのとき、三十三歳のわたしは、

「ぼくはルドルフだ。」
と書きはじめると同時に、

「わたしは斉藤洋だ。」
と言いたかったのではないだろうか。



講談社写真部提供

1952年東京都生まれ。1986年『ルドルフとイッパイアッテナ』で講談社児童文学新人賞、1988年『ルドルフ ともだち ひとりだち』で野間児童文芸新人賞、2013年『ルドルフとスノーホワイト』で野間児童文芸賞を受賞。「どうぶつえんのいっしょうかん」(講談社)に収録されている「ガオーッ」は、光村図書国語教科書(平成4～13年度版)に掲載。おもな作品に「西遊記」シリーズ(理論社)、「アーサー王の世界」シリーズ(静山社)など多数。

CONTENTS

わたしとことば ぼくはルドルフだ。 斉藤 洋

特集 02 「情報の扱い方」を身につけて 思考力を高める

Q & A 樋口直宏
授業レポート「想像力のスイッチを入れよう」(5年) 授業者／西 勝巳

国語と外国語の
よりよい関係 5 12 「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」 森 篤嗣

楷書を考える 1 14 小学校の表記は楷书世界 中村史朗

なるほど国語指導 13 16 「対話的で深い学び」って？ 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

国語 平成31年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

「情報の扱い方」を 身につけて 思考力を高める

今号は、新しい学習指導要領に新設された「情報の扱い方に関する事項」について取り上げます。

学習指導要領の中での位置づけや扱い方について、樋口直宏先生（筑波大学教授）にQ&A形式でお答えいただくほか、西勝巳先生（関西大学初等部）による五年生の授業「想像力のスイッチを入れよう」をご紹介します。「情報の扱い方」を身につけることで、思考力をいっそう高めることを目指します。



新設された「情報の扱い方に関する事項」とは、新しい学習指導要領の中でどのような位置づけのものなのか、また、その資・能力をどのように育成していけばよいのかについて、樋口直宏先生（筑波大学教授）におうかがいしました。

Q1 「情報の扱い方に関する事項」とは、具体的にどのようなことを求めているのでしょうか。

A1 今回、国語科に新設された「情報の扱い方に関する事項」は、話や文章を全て情報と捉えて、その中から重要なものを取り出したり、整理したり、その関係を理解して使う力を系統立てて示しています（※1）。例えば、昨年十一月に行われた大学入試の試行調査（※2）においても、生徒会部活動規約といった文書やアンケート結果から情報を読み取るとか、会話から情報を読み取って自分の考えを書くといった、情報を多角的・複合的に読み取って表現していく力が求められているのです。PISAの調査以来、論理的な思考力の育

成のためには、こういった読みの力が必要だといわれてきましたが、今回、より具体的に指導事項としてあがってきました。

ただし、これは国語科だけで担うものではありません。総則には、学習の基盤となる資質・能力として、「言語能力」「問題発見・解決能力」と並んで、「情報活用能力」があげられています。「情報活用能力」は、教科等横断的な視点で育成するものであり、教育課程の編成を図るうえで重要なものの一つです。国語科ではその「情報活用能力」のどのような側面を担うべきなのか。教科の特質を生かしながら育成していかなければなりません。今回、国語科に新設された「情報の扱い方に関する事項」は、そのような位置づけの中にあるもののなのです。

※1 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）国語
〔知識及び技能〕（2）情報の扱い方に関する事項

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
	（2）話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
情報と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

※2 独立行政法人大学入試センターが実施した、大学入学共通テスト導入に向けた試行調査。

2 「情報の扱い方に関する事項」は、授業の中で取り立てて指導すべきなのでしょうか。

「情報の扱い方に関する事項」は、新しい学習指導要領の三つの柱のうち、「知識及び技能」の中に位置づけられています。それは、理解したり表現したりするさまざまな場面で生きて働くよう、「思考力・判断力・表現力等」と相互に関連し合いながら育成される必要があるとされています。順序や理由といった要素を明確化するスキルを身につけるために、取り立てて指導するのも一つの方法ですが、そうした情報の読み取り方や操作のしかたを身につけるだけでは効果的な指導とはいえません。「情報の扱い方」は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全ての領域に関わる資質・能力であり、これらと組み合わせることで指導の効果が高まるのです。

国語科の授業の中では、短い説明文教材で練習してみるとよいでしょう。例えば、四年「大きな力を出す」では、「はじめ」と「終わり」に述べられている「筆者の考え」について、「それを支える事例」を「中

じ点とちがう点で比べる」という、考えるための技法（思考スキル）を身につけることが目的で、その思考操作を助けるのが思考ツール（ここではベン図）です。思考ツールは、操作が分かりやすい道具なので、クラスの中の思考力の差を埋めてくれる役割もあります。

思考ツールを使った授業で、関西大学初等部の実践に興味深い事例があります。「ワニとキウウリ」をベン図で比較するというものです。突拍子もない組み合わせで、これだけ聞くと、なぜこの二つを比較させるのか分からないかもしれませんが、あまりにも意外な組み合わせだからこそ、共通点と相違点の探しがいるのです。「とげみたいながある」「色が似ている」など、いざ探し始めると、子どもたちはさまざまな共通点を見つけていきます。これらをベン図に整理していきます。

思考操作を重点化することが目的の授業なので、多少のゲーム性をもたせているのが特徴です。ただの情報整理ではおもしろみがないですからね。汎用性のあるスキルなので、一度学んでおくと、他の全ての教科で活用することができます。実際、これを学んだあと、他の授業で「AとBはどう違うかな」と問いかけると、子どもたちは

の部分で挙げながら説明していきます。授業では、こうした構造に気をつけて文章の内容を理解していきませんが、一度内容を理解した後に、文章の構造と内容の理解が密接に関係していることを改めて意識づけていくことが大切です。

3 「情報の扱い方」を身につけるために、「思考ツール」を使うことは有効でしょうか。

子どもたちに、ただ「考えよう」と言っても、どう考えたらいいのかわからないものです。「考える」という言葉を「分類する」「比較する」などの具体的な言葉に置き換えて、考えを促すことが大事なのです。

思考ツールは、そのための道具の一つになります。情報と情報との関係を捉えたり、整理したりする段階で役立つといえます。

自主的にベン図を使って考え始めたそうです。

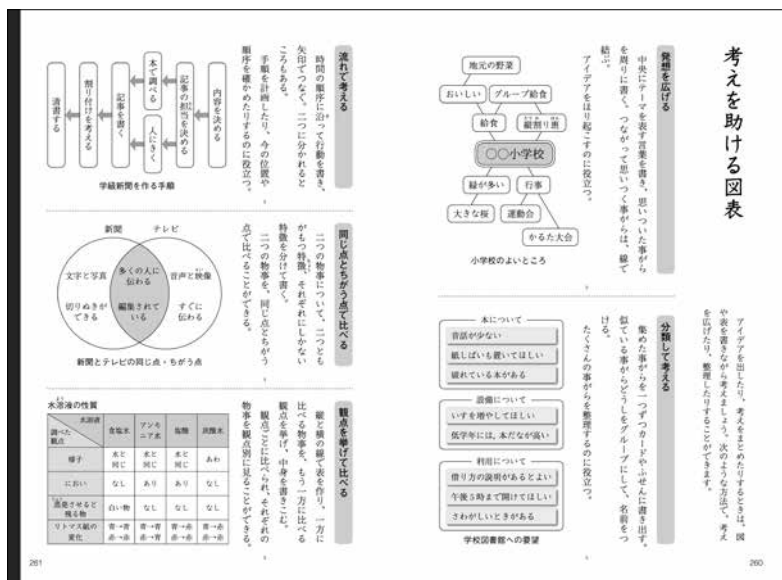
ただ、思考ツールは、あくまで道具の一つなので、これを使うことが目的になってはいけません。

4 子どもたちが、「情報の扱い方」を身につける必然性を感じるには、どんな指導が考えられるでしょうか。

情報を読み取るときよりも、表現するときに、その必然性を感じることが多いと思います。

例えば、プレゼンテーションをするとき、限られた時間の中に伝えたいことを盛り込むためには、情報の精査が必要になります。そして分かりやすく伝えるために主張や根拠となる理由を考え、どこでどのような資料を提示するかなど、必然的に情報の扱い方を工夫することになります。

授業においては、情報を整理しながら思考力を高め、表現に生かせるようになることを目指してほしいと思います。取り立て



▲※3 『国語』6年巻末付録「考えを助ける図表」



樋口直宏

筑波大学教授。1965年東京都生まれ。専門は教育方法学(批判的思考、授業研究、小中一貫教育)。著書に、『批判的思考指導の理論と実践』(学文社)、『実践に活かす教育課程論・教育方法論』(共著・学事出版)など。

「想像力のスイッチを入れよう」

— 情報を整理し、表現につなげる —

関西大学初等部

西勝巳^{にしかつみ}先生 × 五年生（29名）

「想像力のスイッチを入れよう」は、事例と意見の関係を押さえて読み、考えをまとめることを目標とした説明文です。

西先生の授業のねらいは、「情報を整理したうえで、それをいかにして自分の表現にもつていくか」というところにあります。文章をしっかり読み取ることを通して思考力を高め、それを表現につなげていく手立てについてご紹介します。

3・4時

事例と意見の関係を捉える

キーワードは
何かな？

本時は、おおまかな文章構成をつかみ、事例と筆者の意見を整理したうえで、キーワードである「想像力のスイッチ」に着目する活動を行います。

全文を三つのまとまりに分け、事例と意見にサイドラインを引くところまで学習はスムーズに進みました。事例と意見のつな

児童 本文に何回も登場する言葉がキーワードだと思う。

先生 ああ、なるほど。大事な言葉だから、何回も出てくるということだね。

児童 じゃあ、どれが多いか数えてみればええやん。

児童 賛成！ でも、一人で数えるのは大変だから、グループの中で分担して数えるのがいいと思う。

予想した言葉が本文に何回登場するのか、全員で数えてみることにしました（次ページ※1）。

しかし実際に数えてみたところ、子どもから疑問の声ががります。

児童 多ければ多いほど大切なのかな？

児童 たくさん出てくるけど、キーワードとはいえない言葉もあるよね。

先生 それはどういうこと？

児童 たとえば「報道」とかは、筆者の考えとは、直接の関係はなさそう。

先生 単純に出てくる回数だけで決められないということだね。

児童 まとめのところに出てくる言葉がキーワードじゃないかな。

指導計画（全8時間）

第1次

1時

- ・メディアについて知っていることや経験したことを伝え合う。
- ・全文を読み、初発の感想を書く。

2時

- ・初発の感想の交流。
- ・学習課題づくり。

第2次

3時

- ・本文シートをノートに貼る。
- ・おおまかな文章構成をつかむ。
- ・キーワードの確認。

4時

- ・事例と筆者の意見の関係を捉える。
- ・「想像力のスイッチ」という表現に着目する。

5時

- ・「想像力のスイッチ」について考え、自分の意見をもつ。
- ・「メディア側の努力」について考える。

6時

- ・「メディア側の努力」についての意見交流。
- ・本文中の比喩表現のリライト。

第3次

7時

- ・「メディアとどう関わるべきか」自分の意見をまとめる。

8時

- ・前時に書いた文章を読み合う。

かりを可視化させることで、四つの「想像力のスイッチ」（『事実かな、印象かな。』『他の見方もないかな。』『何がかくれているかな。』『まだ分からないよね。』）にも自然に目を向けることができました。

ここからが、本時の指導ポイントです。

先生 この文章には、「想像力のスイッチ」以外に、キーワードはないのかな？

「想像力のスイッチ」という言葉に込め

られた筆者の考えを詳しく読み取るために、西先生はこのような問いかけをしました。子どもたちは、次の言葉がキーワードではないかと予想しました。

【予想】メディア、情報、想像、事実、印象、見方、報道

ここで、子どもたちにさらに考えさせます。

先生 たくさん出てきたけれど、どれが本当にキーワードなんだろうね。

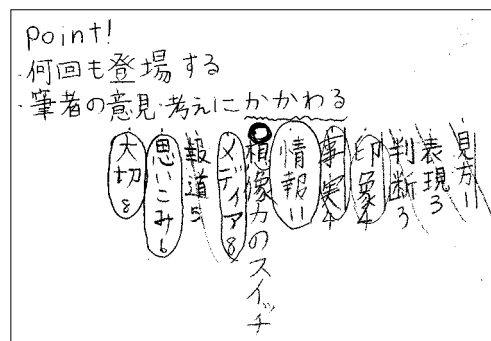


▲※2 話し合いながら、班の意見をホワイトボードに書き込んでいく。

という疑問は、二時に子どもから出されたものでした。ここでその学習課題を提示し、班ごとに話し合う時間を設けました(※2)。

授業者より本時のポイント

こうしたキーワードの絞り込みも、情報整理の一つといえます。子どもたちは、意味をもたない情報整理はしたがりました。今回は、子どもから「数えてみよう」という提案がありました。実際にやらせて納得させることで、必然性のある情報整理となり、主体的な読み取りへとつながりました。



▲※1 児童のノート。これらの言葉が本文に何回登場するか数えたもの。初めは、「見方」「報道」などの言葉がキーワードではないかと予想したが、学習する中で、「思いこみ」「大切」という言葉に気がついた。

新しく提案された観点でもう一度考え直した結果、「思いこみ」「大切」といったキーワードが新たに出てきたら、「見方」や「報道」は、キーワードの候補から外れることになりました。

5時

教材に近づく、自分の意見をもつ スイッチの 優先順位は？

授業の冒頭、西先生は、「今日は、『四つの想像力のスイッチ』についてもう一度考えてみたいと思います」と言いながら、四つのスイッチを板書しました。

- A 事実かな、印象かな
- B 他の見方もないかな
- C 何がかくれているかな
- D まだ分からないよね

先生 この四つは、具体的にはどういうことと分かるか？

前時までは、教材文をもとに、筆者の考える「想像力のスイッチ」について考えましたが、子どもたちがこの言葉を具体的にイメージできているかどうか確認するために、このような問いかけをしました。

「事実かな、印象かな。」について

児童 それが本当のことか、単なる思い込

みか考えるということ。

児童 ネットで買った物が、広告で見た物よりも小さくて、実際と印象は違うことがあると思った。

児童 本当のことなのか、デマなのか。

先生 デマって何？

児童 事実とは違う……、うその情報。

「他の見方もないかな。」について

児童 答えは一つじゃなくて、他の答えもないかなって考えること。例えば、百円のお小遣いで、「たった百円か」って考える人もいるけど、「うまい棒がいっぱい買えるやん」っていう考え方もある。

児童 一つの方向だけでなく、多方面から見るということ。

抽象と具体をできるだけたくさん往復させることで、子どもたちを教材文に近づかせます。

先生 ところで、この四つのスイッチに優先順位であると思う？ いちばん大切なのは何か、という言い方をしたほうが分かりやすいかな。

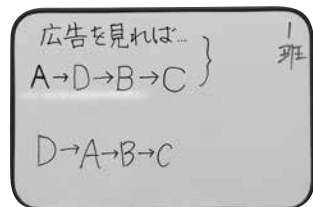
「四つのスイッチに優先順位はあるのか」

一班の話し合い

児童 Aを考えたからBが出てきて、Bを考えたからCが出てきて……。だから、A→B→C→Dの順でしょ。

児童 教科書182ページの五行目に、「最後に、いちばん大切なのは」って書いてある。だからDがいちばんだよ。

児童 筆者はそうかもしれないけど、私は違うなあ。例えば、広告を見たときに、最初から『まだ分からないよね。』って考えへんよ。『事実かな、印象かな。』が先だと思う。



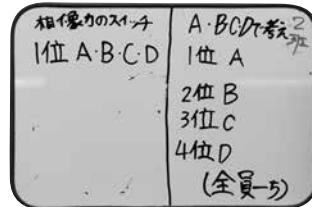
二班の話し合い

児童 筆者が伝えたいのは「想像力のスイッチ」という言葉でしょ。その言葉が成り立つためには四つ全部必要だから、順番はつけられへんよ。

児童 全部大事なのは分かっているけど、その中でどれがいちばんのかを考えるんですよ。

児童 全部一位だよ。

児童 うーん、そうかなあ。

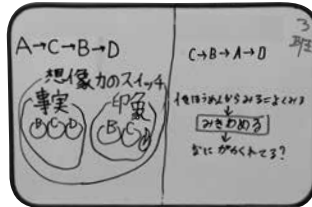


三班の話し合い

児童 「想像力のスイッチ」っていう大きなマルの中に、「事実」と「印象」があって、そこからB、C、Dを考えるんだと思う。

児童 そうかな？ まず、Cの『何がかくれているかな。』を考えて、それが「事実」なのか「印象」なのか考えるんじゃない？

児童 最初がAなのかCなのか迷うけど、最後はDだよな。



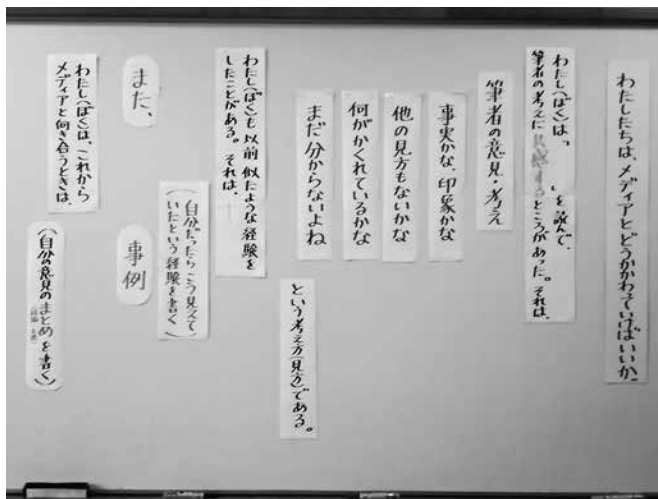
授業を終えて

説明文では、何が（内容）どのように（表現）書かれているかを
読み取っていくことが大切です。
内容と表現をうまくつなげて読み
取るためには、子どもたちに論理
（つながりとその理由）を気づか
せることから始めます。本単元で
は「想像力のスイッチを入れよう」
とは何かについて、叙述から情報
を取り出し、その情報に自分の知
識や体験を重ねながら、考えを整
理したり広げたりしていくような
探求的な思考力と、伝えたい・伝
えるべきことを論理的に記述して
いけるような表現力を鍛えること
を旨としました。本活動が新しい
学習指導要領の新設事項「情報の
扱い方」を取りあげるうえでのポ
イントになると考えています。



にし かつ み
西 勝巳

兵庫県神戸市生まれ。神戸大学附属小学校
在職中より、国語科は技能教科であるとの視
座から、「話す・聞く」「読む」「書く」の表現
力向上を旨とした実践研究をしている。主に
兵庫県下で、各地域・学校の研究テーマに合
わせた国語教育の推進にも取り組んでいる。



▲※3 「わたしたちはメディアとどうかわっていいか。」のモデル文型。

【児童のノートより】

わたしは、「想像力のスイッチを入れよ
う」を読んで、筆者に共感するところがあ
りました。それは、「事実かな、印象かな。」
と考えてみるのが大切。」という文章です。
わたしも事実なのか印象なのか、よく考
えるべきという経験がありました。よくス
マホに特別セールのちらしなどのお知らせ
がとどきます。わたしは、聞いたことがな
いお店だと、うその情報かなと思います。
(中略)

授業の初めにモデル文型を示しまし
た。モデルがなくても、これまでの学習
内容をもとに書くことができる子どもは
大勢いますが、一人でもつまずくことが
ないよう、今回のような支援を行いまし
た。これまで六時間にわたって積み上げ
てきた学習を、「書けなかった」で終わ
らせてはならないと考えたからです。
また、もう一つの支援として、書く活
動の前に、自分の体験を班の友達に伝え
合う時間を設けました。友達の話がヒ
ントになったり、自分の考えがまとまっ
たりする効果があるからです。活発に伝
え合う姿から、「思考力を高め、表現につ
なげる」というねらいが達成できたこと
を感じました。

授業者より本時のポイント

そう言いながら、あらかじめ準備してお
いたモデル文型の短冊をホワイトボードに
提示しました（※3）。

書きだしの一文と、結論の書きだし方は
具体的に示し、書くことが苦手な子どもで
も取り組みやすいようにしました。また、
自分の体験（どのスイッチと関連している
のか）を必ず入れるように伝えました。

二十分ほど話し合ったあと、それぞれの
班のホワイトボードを教室の前に並べて、
意見を共有する時間を設けました。班ごと
の発表のあと、西先生は子どもたちにさら
に考えさせます。

先生 みんなが大切だと思ったのは、Aが
多かったね。でも、筆者が大切だと思っ
ているのは……。

児童 Dの『まだ分らないよね。』

先生 筆者は、なぜDが大切だと思ったん
だろう。

西先生は、この答えをすぐには求めず、
これが次の課題「メディア側の努力」につ
いて考えるヒントになると伝えました。各
自、三分間で思いつくことを書き、その後
クラス全体で共有する時間を設けました。

【子どもたちから出た意見】

- ① 誤った思い込みを伝えないようにする。
- ② 公正・公平に伝える。
- ③ 一度に全てのことを伝えきれないので、
大事だと思つことを選ぶ。
- ④ 少しでも早く伝える。

本文には、情報を受け取る側の努力は書

かれています。が、「メディア側の努力」に
ついては何も書かれていません。教材を十
分読み込んだうえでこの課題について考え
させた結果、三分という短い時間の中での
確な意見が出ました。

授業者より本時のポイント

筆者が大切だと考えているのは『まだ
分らないよね。』でしたが、子どもた
ちの大多数は、『事実かな、印象かな。』
が大切だと考えていました。この筆者と
の距離感（ずれ）をきっかけに、子ども
自身の考えを明確にさせたいと考えまし
た。また、『まだ分らないよね。』をヒ
ントにして「メディア側の努力」につい
て考えることで、①②のような「正確さ」
に関する意見を出すことができました。
「情報の扱い方」という点でポイント
になるのは、班ごとの話し合いです。自
分の意見と他者の考えを客観的に検討し
ていくことで、情報整理の力が育まれま
す。

7時

自分の考えをまとめる
メディアとどう
関わるべきか？

いよいよ本時は、自分の考えをまとめる
時間です。西先生はさっそく、学習課題を
提示しました。

先生 「わたしたちはメディアとどうかか
わっていいか。」これが、今日の課
題です。自分の主張をしっかりとノートに書
いてもらおうと思います。

その前にひとつ。書くときのモデルを提
示しておきます。このとおりに書きなさい、
ということではないですよ。参考にしてみ
てください。

「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」

京都外国語大学教授 森 篤嗣^{もり あつし}



1975年、兵庫県生まれ。国立国語研究所准教授、帝塚山大学教授などを経て、現職。国語科教育だけではなく、外国語としての日本語教育の研究にも従事する。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

今回は、内容言語統合型学習CLIL（クリル）による、英語と他教科等の内容を同時に学ぶ方法をご紹介します。

CLIL（クリル）とは

まだ現場では耳慣れない言葉だと思いがちですが、CLILとは、Content and Language Integrated Learningの略で、その頭文字を取ってCLIL（クリル）とよびます。日本語では「内容言語統合型学習」と訳されます。その名称からもわかるように、学習する内容と言語学習とを統合して同時に学ぶ方法です。すなわち、「言語を学ぶ」のではなく「言語で学ぶ」ということになります。

学習者の言語活動を重視するという点は、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」にも近いといえます。日本においては、年少者のための日本語教育（外国にルーツをもつ児

童・生徒対象）や、介護・看護の日本語教育などで内容を重視した教育が実施されています。

小学校における外国語活動・外国語科における英語指導についても、「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」という方向性は大きな可能性があるといえます。そこで、今回はこのCLILを取り上げ、学習する内容と言語学習とを統合して同時に学ぶ方法について具体的な授業事例に則して考えていきたいと思います。

CLILの特徴（4C）

CLILの特徴は、Content（内容）、Communication（言語知識・言語活用）、

継続的知識といえます。CLILでは特に継続的知識を重視しますので、言語活動を通して「できる」知識の獲得を目指します。

② Communication（言語知識・言語活用）

CLILでは文法や文字などの「言語知識の学習」、文章構成のしかたや話し方などの「言語スキルの学習」、作文やスピーチなどの「学習を通して言語使用」という「3つの言語」を授業設計に組み入れます。内容言語統合型学習というと「学習を通して言語使用」だけが重要だと思ってしまうがちですが、そこに至るまでに「言語知識の学習」「言語スキルの学習」を計画的に組み入れないとバランスが悪くなってしまいます。国語の授業では、「言語活動」のみに目がいつて、「つけたたい力」を見失ってしまうのが、まさにこのケースです。

③ Cognition（思考）

CLILでは、「記憶」や「理解」といった「知っている」ことだけでなく、「受容・応用」「分析」「評価」「創造」といった分かる・使える高次の思考を伸ばすことを目的としています。具体的思考だけではなく、抽象的思考を重んじるということになります。これを達成するには、学習者が自力で解決できない課題に対する教師の支援（スキャフォールディング「足場かけ」）をいかに効

果的に行うかがカギになります。

④ Community（協働学習・異文化理解）

CLILでは、ペアワークやグループワークなどの協働学習を頻繁に取り入れます。小学校であれば、教室にいる他者の経験や意見に耳を傾けるためということになります。ただ、日本の小学校教育におけるクラスは同年齢かつ同質な集団であることが多いため、Community（協働学習・異文化理解）を重視するには、教室の枠を越えた交流（教室外や学外に出る、学外から人を呼ぶ）なども必要になってくるでしょう。

内容と思考を重視しよう

それぞれ説明してきたCLILの4つの特徴のうち、Communication（言語知識・言語活用）とCommunity（協働学習・異文化理解）については、先にも述べたとおり新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」でも重要な概念ですので、特段にCLILでだけ強調することではないでしょう。

CLILによる授業づくりで重視したいのは、Content（内容）とCognition（思考）です。特に「内容」については、外国語活動・外国語科において、他教科の内容を扱う

ことで、児童の既存の知識を活用した活動を英語でなぞっていくことが可能となります。

例えば、国語の「内容」を扱う場合の例をご紹介します。小学校六年生を対象に、五年生で学習した「和語・漢語・外来語」を扱います。

Where is (品名) from?
Its from (国名).

右記の文型のほかに、品名と国名をあらかじめ学習しておきます。品名や国名はカードを作成しておく、よりスムーズです。最初は教師からクイズを出して児童が答えますが、慣れれば児童どうしでクイズを出し合います。「どの国から来た言葉なのか」という内容に関わる知的好奇心が重要です。

これは一例ですが、CLILの内容言語統合型学習では、他教科など既存の知識を最大限に活用して「英語で」学びます。国語・算数・理科・社会だけではなく、音楽・図工・体育なども対象になります。いえ、むしろ実技教科のほうが、「聞いて、理解して、活動する」というプロセスを主としているため、CLILに向いているとさえいえるでしょう。

【参考】

○奥野由紀子（編著）（二〇一八）「日本語教師のためのCLIL（内容言語統合型学習）入門」凡人社
○注目の指導法「CLIL」を使った小学校の授業
<https://world-family.co.jp/why/news/201804-02.html>

1 小学校の表記は楷書世界

滋賀大学教授 中村史朗

新連載「楷書を考える」は、楷書という書体の理解を基盤にしながら、書写導入期の課題や、小中接続期の課題についても取り上げていきます。

第一回は、楷書とはどんな書体なのか、指導する際の留意点とともにご紹介します。

1 現代の公用書体

小学校での表記を考えると、児童の目に触れるものは全て楷書で書くということが前提になっています。学習指導要領で「正しく」「整えて」というのは、楷書によって、という意味です。当たり前のようですが、手書きや活字で多様な書体、書風が用いられる実社会のありようとは随分と異なった環境といえます。

教師の側から見れば、指導上のノウハウは経験とともに蓄積されていきますが、そもそも楷書という書体がどのような書法上の原則に拠っているのか、あるいはそれが現在の日本語の表記にどのように

2 楷書ってどんな書体？

漢字は、一般に五つの書体（五体）に分類してその生成の過程が説明されます。公的な場面で使用されてきた篆書、隸書、楷書と、実用的な要求に応じた行書と草書です。今日では、さまざまな新資料が発見され、書体変遷の過渡期の状況が明らかに becoming ことで、五つの分類は実態に

そぐわないものになります。しかしながら、教育の現場においては、漢字が三千年以上にわたって姿を変えながら命脈を保ってきたことを説明するうえで今なお有効な分類法といえます。五体の分類に拠れば、楷書は最後に完成した書体で、以後新しい書体は生まれていません。およそ六〜七世紀に中国で完成した典型的な楷書をモデルにしながら、今日にいたるまで楷書は公の場の中心で用いられてきました。現在でも明朝体、教科書体、パソコンのフォント類も基本的にすべて楷書です。小学校においても、公用書体としての楷書を理解し、あらゆる生活場面で活用できるよう楷書による表記を初歩から学びます。

1960年京都府生まれ。専門は書学書道史。漢字を中心とする書家としても活躍。光村図書 中学校「書写」および高等学校「書」教科書編集委員。



3 書き方の原則

では楷書の書法の原則とはどのようなものなのでしょう。

楷書は、一つの点画を書くときに「三節」で運筆します。始筆→送筆→終筆という例の取り組みですね（※1）。これも今日では書くときの常識のように考えられがちですが、楷書がその姿を定める中で固まってきたものです。楷書には、三節で書くことによって点画が分節する、という特色があります。毛筆書写の導入時にパーツとして「基本点画」を学ぶことができるのも、漢字の画数がカウントできるのもこの用筆原理に従っているからです。

次に、楷書は、独立した点画が組み合わさって一字を構成します。この点画構成は、実は微妙な点画構成を基本としていて、歴史的な名筆の姿を正確に書き写そうとすると相当に書法を学ばないといけません。しかし小学校書写では、高度な書法の前提となる大きな原則を徹底することが大切です。楷書に限らず各書体の書法は毛筆を使用する中で作り上げられてきました。楷書の場合、三節の運筆リズムに拠って、点画の均衡関係を保ち

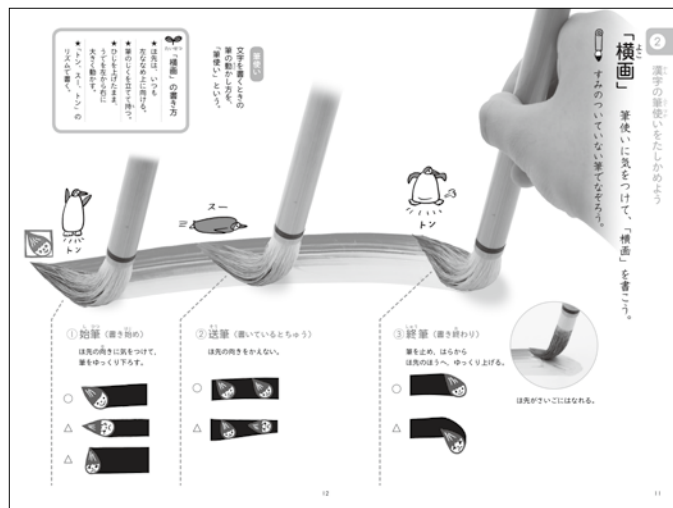
4 楷書事始め

——将来の表記を見据えて——

ながら一字を組み立てようとする、やはり筆鋒（ひつぽう）の動きや筆圧の強弱が、文字の姿の完成に深く関係しています。しかもいうまでもなくそれは漢字という場において展開されてきたものです。

いでしょうか。空書きで三節を意識させたり、水書板を使って毛筆の動作を見せたりすることも有効でしょう。

初めに教科書体活字や書写体ありきの指導ではなく、先に述べた、楷書の書体を育んだ歴史的な営みにまで視点が届くような指導側の構えが重要であろうと筆者は考えています。本連載では、書写の指導をこれまでと少し違った角度から考えていきます。



▲※1 『書写』3年 p11-12

広島県生まれ。玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て、現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。



「対話的で深い学び」って？

作・画／あべかよこ 監修／輿水かおり





深い学びに「対話的活動」は必須。多様な考えを共有するための言語技能の習得は国語科の役割。6年間の系統性を意識した取り組みを、学校全体で充実させて！ 教科書はお得情報満載です。(コッシー)

2018, いっしょにはじめませんか。
これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版(指導者用)はホームページよりダウンロードできます。

www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

指導者用 平成27年度版小学校教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」1～6年

2年ライセンス
(DVD付属) 各46,000円+税
ダウンロード版 各23,000円+税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版 各21,000円+税
ダウンロード版 各7,000円+税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版 各72,000円+税
ダウンロード版 各23,000円+税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版 60,000円+税
ダウンロード版 20,000円+税

2年ライセンス DVD版 使用期間は、ライセンス発行日より平成32年3月までです。
ダウンロード版 使用期間は、平成27年度版教科書使用期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。

CoNETS® 光村図書は、CoNETSに参画しています。
www.conets.jp

学習者用 国語デジタル教科書
3～6年



ともに学ぶ授業に

伝え合う力が
身につく授業に

個に応じた授業に

Windowsストアアプリ

各1,500円+税

／1端末(1年間利用)

国語 平成31年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成31年度用1～4年上巻および5・6年教科書では、平成30年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

学年	ページ	行など	30年度	31年度
5年	45	筆者紹介	一九二五年、東京都生まれ。数学者。特に、世界のあや取り文化について研究している。	一九二五～二〇一七年。東京都生まれ。数学者。特に、世界のあや取り文化について研究していた。
	238	4段目右	すぎはら さちこ 杉原 幸子	すぎはら ゆきこ 杉原 幸子
6年	142	筆者紹介	一九三五年生まれ。	一九三五～二〇一八年。

2019年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募のお知らせ

一般財団法人「言語教育振興財団」では、小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象とし、今後の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの(教育内容・方法部門) ②言語教育教材の質的向上に関するもの(教材部門) ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)
研究期間	2019年4月～2020年3月(原則1年間)
応募資格	言語教育(国語、英語、日本語等)に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)、上記に準ずると見做される団体及び個人
助成件数及び金額	助成件数は60件程度 助成金額は1件につき原則として、20万～40万円
助成金の使途	助成金の使途は、研究に直接関係するものに限り、インフラ整備のための物品購入は対象となりません。
応募方法・締め切り	・研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、2018年12月21日(金)必着で、当財団事務局に郵送のこと。 ・「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用切手(120円)を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。
決定・発表・交付	2019年2月に当財団「選考会」にて選考を行い、選考結果は2019年3月末までに文書にて通知します。交付は、2019年4月末までに指定された金融機関に振り込みます。
問い合わせ先	一般財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL & FAX 03-3493-7340 E-mail: gengo-k@star.ocn.ne.jp

マイシャと 精霊の木

アフリカ・サバンナに生きる少年マイシャと、

精霊の木との対話形式で展開する「いのちの物語」。

医師であり、自然写真家でもある著者が、

過去60回以上ものサバンナ取材旅行を通して考えた

「いのち」の意味や、その尊さについて問いかけます。

「いのち」について、

主人公マイシャとともに考えることができ、

道徳科や総合的な学習の時間、

長期休暇時の課題図書としても最適です。

井上冬彦

文・写真



好評発売中

マイシャと精霊の木

井上冬彦 文・写真

定価：1,800円＋税 / AB判(257mm×212mm)

ISBN978-4-8138-0063-7 C0072

井上冬彦
いのちをふりかへる
一九五四年東京都生まれ。
医療法人「井上胃腸内科ク
リニック」理事長・院長。
医学博士。一九八七年に初
めて東アフリカのサバンナ
を訪れて以来、サバンナの
自然と動物をテーマにした
写真撮影を行っている。

光村図書出版株式会社 ●ご注文は、お近くの書店、または弊社ウェブサイトで。 www.mitsumura-tosho.co.jp



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻 No.184 2018(平成30)年9月25日発行

発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。

詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。